

# 軽井沢高校・長野大学 高大連携 授業「環境」

## テーマ 軽井沢の自然・森について学ぶ

長野県軽井沢高等学校

軽井沢高校と長野大学の連携授業 本校学校設定科目「環境」の中で行いました。

平成19年3月に「高大交流に関する協定」を結び、「大学から本校へ教員を派遣し、特別講義・教材研究協議を行う」事業の一環として行いました。

講師は、高橋一秋環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科准教授です。



### ～授業の流れ～

【第1回目 講義 (4月28日) 10:55～11:45】

授業名： 軽井沢の森が抱える問題と地域再生の試み

内容： 軽井沢の自然に生きる動植物を紹介しながら、身近な里山が抱える課題や豊かな森の恵みを活かした地域再生の試みについて学ぶ。



(生徒の感想から)

- ・軽井沢の森にいる動物について、ツキノワグマの足が速いことや目が悪いこと、カモシカはウシ科の動物であることなど詳しく話を聞くことができた。
- ・軽井沢は江戸時代の噴火で消滅した森が自然や人の力で再生した森だから、あまり森の寿命ではまだ若い森だった。多様な森林タイプがあり、多くの森林に棲む動物を育ててきた。

【第2回目 教材ビデオ視聴 (5月12日)】

授業名： 森の恵みを地域社会に活かす

内容： 長野大学「森の恵みクリエイター養成講座」で作成した教材ビデオ2本を視聴し、森の生態系サービスを地域社会の持続的発展に役立てる知恵を学ぶ。

【第3回目 実習 (5月19日) 9:30～12:00】

場所： 長野大学・恵みの森

授業名： 森の恵みを地域社会に活かす： 長野大学・恵みの森での活動

内容： キャンパス内の「恵みの森」で行っている活動を紹介し、森の恵みを再生・活用する方法を体験的に学ぶ。



大学ホールにて  
アイスクレイキングの例を体験



恵みの森にて  
腐葉土作りの見学



樹木の二酸化炭素  
貯蔵量計算

(生徒の感想から)

- ・森のカードゲームをして森の植物のことを知ることができた。
- ・いろんな植物の利用方法があることがわかった。
- ・恵みの森について話を聞いたあと、キノコ栽培や昆虫採集、巣箱かけ、野生の果樹の栽培のようすを見学した。
- ・カブトムシの幼虫を守るために腐葉土を網で守っており、工夫が必要だと思った。

【第4回目 実習 (5月31日) 10:55~12:45】

場所： 軽井沢高校・離山周辺

授業名： 森の癒し効果を体験する： 森の中の散策と植物観察

内容： 身近な植物の観察を通じて、森の中での生き物同士の関わりを学ぶ。また、植物の形・色・香りを楽しみつつ、森の癒し効果について考える。



樹木の観察



五感を磨く体験



樹木に身をゆだねてみよう

(生徒の感想から)

- ・ 森の中に入った時、ただ疲れるだけだと思ったが、鳥の鳴き声や木が風でゆれる音などが聞こえなぜかとてもリラックスすることができた。今までは森の中に入ることがないため、普段がどれだけのうさい中にいるのだと思い知った。自分は木は木でしかなかったため、ほとんどが同じ木に見えていたが、木の種類などを聞いたあとではそうは思わなくなった。植物にもたくさんの種類があることを知った。
- ・ 離山で初めて見る植物がみられたのがよかった。アブラチャンというめずらしい植物の名前も知れてよかった。
- ・ 新しい発見もあって楽しかった。
- ・ 杉の木の葉のことで日本海側は痛くなくて、太平洋側は痛いなどがわかった。

《まとめ》

軽井沢の森を利用し、役立てていくために4回にわたる授業を実施した。軽井沢の豊かな森は、多くの人間の努力によって作られてきたことに気づき、様々な利用方法があることを学ぶことができた。



森の近くに住んでいながら、どのような木が植えられ、どのような動物が生活しているかということを知らない生徒が多い。森を利用する方法を考える中で、少しでも多くのことを学ばせたい。